

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)  
**KECA ニュース =No.51=**

【巻頭言】

## 2014年の年頭に思うこと

理事長 木村信幸

2月も終わろうとしているこの時期に年頭もないかもしれませんが、本年の初号ということでご容赦いただきたいと思います。

唐突ですが2050年（36年先）に日本という国はどういう姿になっているのでしょうか。国交省の有識者懇談会が50年を見据えた今後の国土計画や地域づくりの指針をつくらうと議論を始めているようです。逆に36年前（1978年）はどんな世の中だったか振り返ってみると、その後の技術革新が革命的であったことが分かります。今から36年後の社会、それは国土が更に狭くなること即ち、東京、名古屋、大阪がリニアにより1時間余りで結ばれば、東名阪がひとつの巨大な都市圏になって物理的な「距離」は益々意味が薄れることになります。



一方で日本の人口は1億人程度に減り、全国の居住地域の3分の2では人口が半分以下になる見通しだそうです。三大都市圏を除けば、概ね「人口半減社会」に突入することになります。無策のままでは各地で地域社会が崩壊し、地方経済は構造的に衰退し続けることになると言われます。「人口半減社会」に備えて国はもちろん自治体も長期計画をつくる必要があるのではないのでしょうか。

そこまで先のことは考えられませんが、当協議会（KECA）も中長期的な展望が必要ということで本年度首（6月）に「KECAの活動方針」（中長期目標的な位置づけ）を決定し、その具体的取組として中期計画を策定することになりました。そして昨年（10月理事会で）中期計画検討会が発足し、検討を始めました。事務局の企画担当メンバーが中心となり、各支部、委員会の関係者が一堂に会し喧々諤々の議論を展開しています。個性的なメンバーの集まりということもあって、議論が沸騰すると喧嘩腰にさえなりますが、自分達で築いてきた会をより良いものにしていこうという意志の表れと思えば頼もしささえ感じます。

KECAの活動方針にある基本方針：

- (1) 環境に配慮する市民と事業者を増やし、地域社会に貢献する
- (2) 自ら楽しみながら活動し、生き甲斐の持てる会の実現を図る

を各種活動を通して実現するために、できるだけ早く中期計画を策定し、年度計画に落として活動を進めて参ります。会員の皆様におかれては、ご期待いただくと共に絶大なるご協力をお願いいたします。

さて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックが決まり、顔となる新たな都知事も決まりました。今から6年後、「人口半減社会」突入まで30年の社会はどこまで進むのでしょうか。IPCCの第5次評価報告書からの警鐘を、どう受け止め行動に結びつけられるのでしょうか。更には世界自然保護基金（WWF）や欧州連合（EU）が提唱する「ワンプラネット・リビング（地球一つ分の資源で持続可能な生活や社会を実現すること）」への端緒は掴めるのでしょうか。そしてKECAはどうなっているのでしょうか。



やはり行き着くところは、“継続は力なり”、“Think globally, Act locally”を共有し続けることではないのでしょうか。共に頑張っ参りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

## 【理事会】

## 1 2月理事会 in 横須賀の報告

横須賀三浦支部 支部長(代) 高橋 弘二(副理事長)

お天気に恵まれた12月8日(土)、横須賀市産業交流プラザにおいてKECA理事会(14時~16時50分)を開催しました。年2回の理事会は支部持ち回りで開催しており、今回、当支部が担当となりましたので、理事会の前に今人気の「軍港めぐり」を体験していただくことにしました。

11時、日本で唯一階段のない駅・横須賀駅に集合し(一部京急汐入駅)、横須賀港に面したヴェルニー記念館を見学、フランス式庭園・ヴェルニー公園を軽く散策しました。お昼は横須賀港・米軍基地を見下ろすホテルの19階のレストランで食事を済ませてから、歩いて5分ほどの乗船場へ。

ほぼ満員の船は定刻13時に出航、12月とはいえ、それほど風も冷たくないで、全員甲板に上がって見学。横須賀港は右手が米軍基地、左手が海上自衛隊の基地になっていて、すぐに潜水艦、護衛艦などが見えてきます。ほとんどの方は初めて見る艦船ですが、船はゆっくりと横から正面から見ながら進み、時には停船して歯切れよい男性ガイドがわかりやすく説明してくれます。

運良く昨日帰港したばかりの原子力空母ジョージ・ワシントン(GW)が横付けされているのが見えました。ガイドの説明では、この12号バースに停泊しているGWは、陸からは見る事ができず、2、3日すると修理のためシートがかけられるので、このようなGWを間近で見られたみなさんは本当にラッキーと、うれしいことを言って喜ばせてくれました。その他、長浦湾に浮かぶ廃船(スクラップ)待ちの潜水艦、長浦港護岸では出航目前の護衛艦など、滅多に見られない風景を目の当たりに説明を聞きながら見ることができて、参加された理事、横須賀支部会員のみなさんに喜んでいただけたのではないかと思います。

※ジョージ・ワシントン(GW):全長333m、全幅76.8m、排水量104,178トン、原子炉2基搭載(右の写真)



軍港めぐりの前に(ヴェルニー公園)



軍港めぐりの船上で

## 【理事会】

理事会は定款第7条で定められた理事により構成され(13名以上30名以下)、理事長が召集(第19条)し開催します。理事会では主として総会の決議に基づきKECAの運営に責任を持ち業務を執行することになっています(第9条)。2013年度の理事は21名で年8回の理事会を予定しており、5回は実施済みです。通常理事会は横浜市市民活動支援センター(桜木町)で開催していますが、年2回を各支部持ち回りとして決めており、次回3月7日(金)の理事会は横浜支部が担当します。当日は理事会に先立ち「三菱みなとみらい科学館」を見学することになっています。

【総合研修会Ⅱ】

2013年度総合研修会Ⅱの実施報告

1. 日時：2013年11月30日（土）、12月1日（日）
2. 場所：奥日光湯元 おおるり山荘、
3. 集合・解散：横浜駅西口天理ビル前
4. 参加者 原千秋（県央）、草間昇（西湘）、福田昭三（相模原）、高橋弘二（横三）、  
木村信幸、河野健三（横浜） 計6名

【概要】 2013年度総合研修会Ⅱは、横浜から往復送迎バス、奥日光湯元のおおるり山荘を宿泊地として自然観察会と懇親を兼ねた一泊研修を行いました。

晴天に恵まれ、1日目は中禅寺湖、立木観音堂、華厳の滝の散策と夕食と夕食後の懇親、2日目は湯ノ湖周辺の自然観察会とバス中継地となった東照宮付近の散策と盛りだくさんの研修会でした。

早朝の自然観察会では2001年にラムサール条約に登録された標高1480メートルの湯ノ湖周辺を高橋さんの案内で散策しました。気温は零度を少し超えた程度の寒さで、硫黄のにおいが漂う散策路から鴨、アオサギ等の野鳥、白樺、カラマツ等の樹木、雪の上の鹿のひずめ跡等、色々なお話を聞くことが出来ました。

夕食時は約40名の若い中国人のグループに圧倒されましたが、夕食後の懇親会ではKECAについて木村さんを中心に色々と意見交換しました。（事務局：河野健三）

総合研修会Ⅱ(奥日光の自然観察会)に参加して

西湘支部 草間昇

定年しましたが、まだ現役で会社勤めです。環境ISOや化学物質管理、廃棄物処理等、日々事業系への環境対応が仕事になっています。

本年KECAに入会してからは環境関連情報が驚くほど届き、自然環境に関係する行事に参加する機会が増えました。11月の鎌倉広町の散策や今回の奥日光の自然観察など経験する中では、童心に帰ったようにも思えました。自然観察は経験しなかったジャンルでもあり新鮮なものでもありました。

今後も事業系環境業務は継続していくことになります。環境カウンセラー、インストラクターへの道も念頭に置き、KECAの活動には積極的に参加して行く所存です。

自然環境に触合え、心の満足ができたこの総合研修会Ⅱには、次回も是非とも参加したく思います。



湯ノ湖から流れ落ちる湯滝を背に



快晴の中禅寺湖（立木観音から）



朝の散歩を終えて（おおるり山荘前）

**委員会報告****環境管理委員会**

委員長 小林嘉博

2013年度の活動実績の主なものを報告します。

**1. エコアクション21のコンサルティング事業**

昨年度からの受託状況の流れの状況をそのまま受けついでいる状態で、状況はさらに厳しさを増しています。本年度の3/4を経過しましたが、昨年度の実績の半分を割り込んでいます。コンサルタント要員のみなさんをお願いするコンサルティング案件が少なく申し訳なく思っています。

「エコアクション21の取り組み内容と取り組み方法」に関するセミナーに出席される企業様の反応も、事業経営の厳しさが反映されているからか、慎重な姿勢が強いように感じられます。

なお、新規の顧客を支部主体の活動として積極的に実施する提案が行われて、地域密着の活動によって現在の閉塞的な状況を打破しようとする動きが始められています。

**2. 自治体イニシアティブ・プログラム、関係企業グリーン化プログラム**

自治体や企業が主催するエコアクション21の集団勉強会が3件成立していて、勉強会の指導員として協力中です。

**3. 審査人等の力量向上のための研修など**

エコアクション21の取得を計画されたり、既に取得された企業様の環境経営の面での満足度を高くするためには、コンサルティングや審査に従事する審査人の力量が高くなくてはなりません。この点に関しては、環境管理委員会の委員各位の認識は十分に高く、委員会内の研修グループの主催する研修会には参加者の数も多く、また研修会でのワークショップにおいては参加者各位の経験を踏まえた情報の交換や共有に努めています。委員相互に指導側と受講者側の役割を果たしながら、切磋琢磨を座右の銘として今後も続けなければなりません。

**4. 情報の管理と共有**

環境管理委員会の活動に関する情報（記録）、例えば委員会の議事録、運営会の議事録（メモ）、エコアクション21に関する相談シートなどを電子ファイルの形で作成するとともに、KECA事務所内のPC及びUSBメモリーに保管を始めました。委員各位の活用をお願いします。

**5. 収支状況**

2013年度における事業としての環境管理委員会の状況は、エコアクション21のコンサルティングの受託件数が大幅に計画件数を下回っていますので単年度の収支が赤字になる見込みです。来年度は、収入に見合った支出を計画して単年度における収支の均衡を図るべきと考えています。

以上

\*\*\*\*\*◇◇◇◇◇\*\*\*\*\*◇◇◇◇◇\*\*\*\*\*◇◇◇◇◇\*\*\*\*\*◇◇◇◇◇\*\*\*\*\*

**環境教育委員会**

環境教育委員長 岡本 正義

□ 委員会開催日：毎月第4月曜日 18:30～ 横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

[対外活動報告・予告・会員へ]

**1. 対外活動（KECAニュース No. 50 以降）**

(1) 環境教育インストラクター養成セミナー・フォローアップ研修会

11月24日（日）午後、横浜市西区福祉保健活動拠点（通称フクシア）において開催し、2012（平成24）

年度の養成セミナー受講者を中心として6名が参加した。

セミナーでは、参加者全員からこれまでの活動の報告と活動実績に伴う疑問、悩みなどについて話してもらい意見交換した。

次に実践的な研修会とするために、こどもを対象とした次の事例を参加者に実践して頂き、課題を把握して頂いた。

①牛乳びんを使った3Rの実践、

②小学生対象の実験：雨水と水道水をどうやって見分けるか？

研修結果として、相手の目線と知識レベルに合わせたプログラムと実験・体験が重要である、身近な所に環境学習に適した機材がたくさんあると再確認した。



どうやって雨水と水道水を見分ける？

## (2) 環境教育インストラクター養成セミナー

2014(平成26)年1月25日(土)、26日(日)の2日間、サンピアンかわさき(川崎市立労働会館)で開催し、14名(神奈川13名、千葉1名、うちKECA会員5名)が受講した。

主催者としてECU鈴木富雄理事長、KECA木村理事長の挨拶の後、関東地方環境事務所環境対策課平野課長から「環境行政の動向と環境教育」について講義していただいた。続いてKECA環境教育委員会委員6名が講師となって、ESD環境教育(平野雅明)、安全対策(川村卓正)、環境教育実践事例4例(高橋弘二、田中真次、岡本正義、三島通世)について講義、紹介した。

その後、「A：生活環境・地球環境2グループ」、「B：自然環境1グループ」に分かれ、参加者が主体となって「環境教育実施計画書作成」についてのワークショップを行った。このワークショップを参考に、各自の「実施計画書」を第2日目朝の受付時に提出する“宿題”が課せられた。

第2日目午前、“宿題”コピーの時間を利用して、お菓子と飲み物をいただきながら交流・懇親会も実施し、参加者やKECA会員との情報交換も行った。その後、全員が約10分の模擬授業を体験、午後からは各グループ代表(4人、Bグループからは2名)から模範授業を実施していただき、インストラクターとしての能力向上と素養のレベルアップを図った。

KECAが実施する養成セミナーの特徴は、模擬授業をたくさん取り入れて環境学習や観察会体験学習の実践力を付けるところにあり、参加者のアンケート結果からも好評、満足の評価を頂いた。



ワークショップ：環境学習実施計画書作成中



模擬授業：海の生き物って何がありますか？

## 2. 予告

「第20回記念市民環境活動報告会」が3月1日(土)10:00~16:20、かながわ県民センター2階大ホールで開催されます。開催にあたっては環境教育委員会メンバー(川村、三島、片野)が実行委員会に参画し企画・運営に当たっています。環境教育委員会から、「エコ育」保育園での環境教育の取組み(高橋)、神奈川の身近な自然を訪ねて(田中)が口頭発表するほか、基調講演「3.11後の日本のエネルギー政策の現状と問題点」(内田裕久東海大工学部教授)、4グループに分かれて全員参加のテーブルセッションもあります。KECA会員の多数の参加を期待します。

エネルギー研究会

地中熱利用冷暖房施設見学会（一番町笹田ビル）

2013年10月21日（月）、エネルギー研究会では東京都千代田区一番町笹田ビルに設置された地中熱冷暖房施設の見学会を行った。参加者：加藤、樋口、杉本、村井（記）

この笹田ビルは、地中熱利用促進協会理事長の笹田政克氏の自社ビルで5階建てである。4～5階は笹田氏の自宅であり、1～3階は事務所として貸しているが、地中熱冷暖房は、この事務所階（延べ303m<sup>2</sup>）に設置されている。

2008年11月に運転開始したが、既にビルが建っていたために、駐車場に深さ75mの坑井を8本掘削し、屋上に設置したヒートポンプで熱を汲み上げ、熱交換した空気を各階で吹き出して冷暖房を行っている。

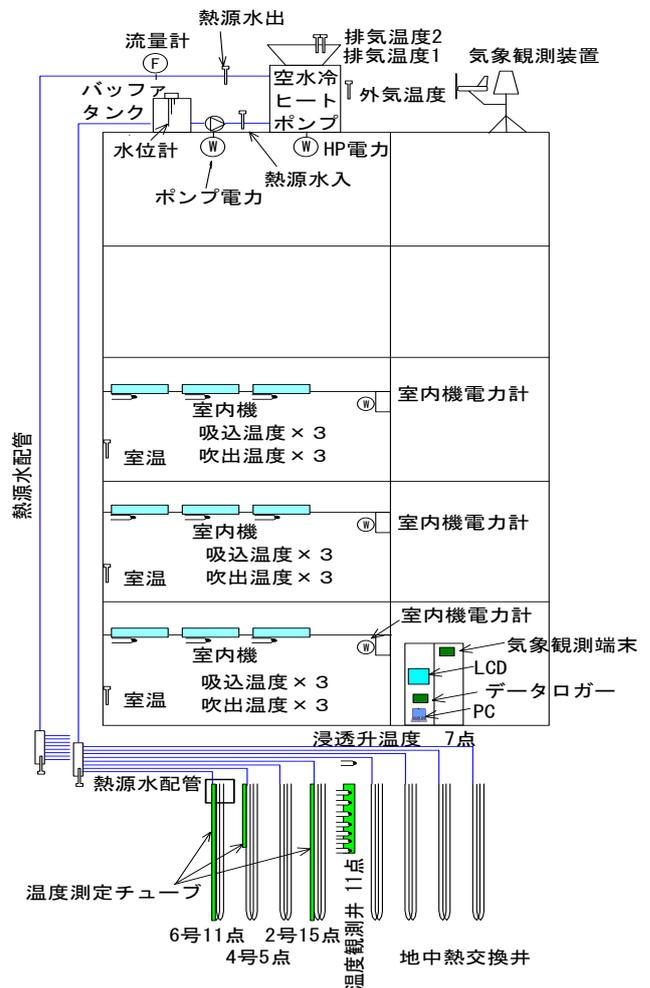
このヒートポンプの動力は電気であるが、そのエネルギーと、これにより取り出されるエネルギーとの比率を成績係数（COP）といい、これが高いほうが、熱効率が良いことになる。地中熱熱源の場合は、空気熱源の場合に比べこのCOPが高く、特に夏の冷房の場合には、7.5と高くなることもあったとのことで驚いた。いわば1の量の動力を使って7.5倍のエネルギーを取り出していることになる。これらのデータは、運転開始以来のデータが記録・整理・分析されているが、これを見ると、地中熱源のヒートポンプの場合は空気熱源（通常のエアコン）の場合に比べ、使用電力量は半分で済むことが判った。

2010年の統計によると、世界における地中熱源ヒートポンプの設置能力（台数）は米国が12,000MWt（約100万台）、中国5,000MWt、更にスウェーデン、ノルウェー、ドイツ、オランダ、カナダ、スイス、フランスと続くが、日本は坑井の掘削コストが高いためもあり、普及が遅れていて、わずか44MWtである。遅ればせながら、現在は経産省の補助金も1/3出るようになっており、来年からは環境省も1/2の補助金を出すとのことであり、今後の普及が期待される。

大規模発電所を中心として長い送電網を使って電気を送る方式は、事故、自然災害で送電線が切れた場合は多くの需要家に電気が届かないというようにアキレス腱を抱えている。

これに対し、こういう自然エネルギーは分散型エネルギーであり、地中熱冷暖房の場合も太陽光発電の電力を動力に使えば、危機時の対応能力が高いという点に注目すべきであり、一種のBCP（事業継続計画）対策になり得ると実感した。

以上



**支部活動報告**

【横浜支部（1）】

**中小企業者向け環境セミナー実施報告**

横浜支部 水野房夫、太田芳雄

横浜支部 EA21 グループ事業の一環として、初めての「中小企業者向け環境セミナー」を下記の要領で企画・実施いたしましたので報告します。

1. テーマ：中小企業者向け環境セミナー
2. 開催日時：2014年1月21日（火） 13：00～17：00
3. 場 所：シルクセンター国際貿易観光会館・地下1階・大会議室
4. 演題及び講師

- |                           |                     |       |
|---------------------------|---------------------|-------|
| (1) 法から見た廃棄物とリサイクル／       | 横浜市資源循環局            | 湯川直樹氏 |
| (2) 横浜型地域貢献企業について /       | 公益財団法人横浜企業経営支援財団    | 高山現人氏 |
| (3) 産業廃棄物協会からのお知らせ /      | 公益社団法人神奈川県産業廃棄物協会   | 渡辺一法氏 |
| (4) エコアクション（EA21）の取得状況等 / | EA21 地域事務局かながわ      | 川崎則子氏 |
| (5) EA21 導入及び取組について /     | 鶴見油化工業株式会社          | 奥石武士氏 |
| (6) エコアクション21の概要とコンサル事例 / | NPO 法人 KECA 横浜支部    | 原 洋夫氏 |
| (7) 何でも相談コーナー /           | KECA 横浜支部 EA21 グループ |       |

日程、セミナー演題、講師交渉、会場予約、原稿収集、セミナー資料作成、会場準備など、すべて計画から実施まで EA21 グループでは初めてのセミナー経験であり、思い通りに行かない点もありました。

例えば、講師確定までには依頼状の送付後の内部決裁手続き等にかかなりの時間がかかったこと、および年末での準備、年初にかけての開催のため、PR（広報）活動に時間が割けなかったなどです。

結果的には成功裡に終わることができ、アンケート結果もかなり好評でした。参加者は 28 名で会場の大きさから見て比較的余裕があり、かえって良かったと思います(写真下左)。

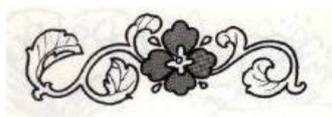
顧客開拓の結果については、受講された会社からの回答待ちの状態ですが、可能性を感じることができました。有望な顧客開拓の手段として、また環境への関心を高める活動の一つとして有効であったと思います。横浜支部の皆さん、ご協力ありがとうございました。



セミナー会場の風景



講師発表（渡辺氏）



## 【横浜支部（2）】

## 自然観察会 I（2013年11月17日）報告

横浜支部 大竹 順之

「古都鎌倉の自然」をテーマに、湘南モノレール西鎌倉駅を出発して、鎌倉広町緑地を中心に、丘陵の尾根筋や谷戸の豊かな樹林や鎌倉時代の歴史に関わりのある小動神社、満福寺、龍口寺等を約5時間かけて巡りました。参加者は、横浜支部会員のほか他の支部会員や奥様も加わり14名でした。

今年度から新たに支部に入会された“森林インストラクター”の田中真次さんにご案内をお願いしました。森林インストラクターの会のイベントを多数経験しているベテランの田中さんの説明は、単に樹木や草木の解説にとどまらず、関連の事柄、例えば「広町緑地の大桐」では、桐は高貴な家紋とされていること、榎の木については夏に日陰を作るので街道筋に良く植えられ、農機具の柄に使われたことからその名がついたこと、等々広がりのある興味深い説明は大変分かりやすく、皆さんが感心して聞き入りました。

好天に恵まれて、龍口寺見学ののち解散しました。右下の写真は、新田義貞が鎌倉攻めの際、戦勝祈願した小動神社で撮影しました。この前は、がけ地になっており富士山を望めるスポットですが、太幸治が心中を試みた事でも知られています。



観察会参加のみなさん（小動神社）

## 【湘南支部】

## 藤沢エコエコまつりに参加

湘南支部長 西村 堅一郎

自然ある未来へ！ 藤沢エコエコまつり（第18回藤沢環境フェア）が2013年11月23日（土曜日・祝日）、辻堂にある明治市民センター・公民館・土打公園において開催されました。

藤沢環境フェアは、地球温暖化防止月間（12月）に実施されています。KECA 湘南支部は一般展示として、KECA の活動紹介、“家族が集まると省エネルギーとなる”ことを体験できる「節電家族」のほか、環境省が今年から提唱している「ウォームシェア」のポスターも展示しました。

市民センターにある調理室において、「キッチン実験室」という参加型の催しも行いました。穀物・野菜・果物などを使った実験を通じて、これらの持つ性質を理解し、食物の大切さを感じてもらうのを目的としています。いずれの催しも大変好評でした。



好評だったKECAのブース

## 【県央支部】

## 県営寒川浄水場、相模川流域下水道処理柳島管理センター見学報告

県央支部 渡邊 靖

日常生活の中で水は欠かせない物です、水の給水・配水方法、家庭からの排出汚水の処理方法はあまり知られていません。そこで関連施設見学を行い見識を高めることを目的として見学会を実施しました。

KECA 県央支部メンバー10名で2013年10月31日、海老名駅前から3台の乗用車に分乗して寒川浄水場、下水処理場柳島管理センターに向かった。寒川浄水場では宮松さん、鈴木さんから一連の説明を受けた。

## 1. 神奈川県営寒川浄水場

寒川浄水場は相模川の河口から約6.5km上流左岸の寒川町宮山に位置し、この地点に設置されている寒川取水堰から表流水を取水し、浄水処理と水質管理を行い、安全な水道水を安定して供給している。

昭和11年4月に寒川浄水場を開設し、現在の給水区域は11市4町（平塚市、鎌倉市、藤沢市、小田原市（一部）、茅ヶ崎市、逗子市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、綾瀬市、葉山町、寒川町、大磯町、二宮町）浄水能力は750,000m<sup>3</sup>/日（東京ドーム0.6個分）である。

施設見学では、急速攪拌池、フロック形成池、沈でん池、急速ろ過池、浄水池の説明を聞きながら見学した、特に、急速ろ過池では砂の層でろ過した後、砂の上に小さな砂やゴミが残る、水を逆流させ洗い出し出す清掃方法は見学者の興味を引いた。

## [浄水プロセス]

①沈砂池→②取水ポンプ→③急速攪拌池→④フロック形成池→⑤沈でん池→⑥急速ろ過池→⑦浄水池→⑧送水ポンプ：浄水池の水を配水池に送る（ここから寒川浄水場外）→⑨配水池：きれいな水を貯えておき、家庭や工場に配る

## 2. 下水処理柳島管理センター

次に訪問した施設は、湘南海岸に面したレンガ作りの建物が下水処理柳島管理センターの正面であった。

責任者の河地さんからの説明では、相模川流域下水道処理柳島管理センター（相模川流域下水道 左岸処理場）は相模川河口の茅ヶ崎市側に位置し、昭和52年12月に処理を開始した。相模川流域の7市1町の下水を処理している（茅ヶ崎市、平塚市、藤沢市、海老名市、綾瀬市、座間市、相模原市、寒川町）。

現在、1日に最大539,100m<sup>3</sup>/日（東京ドーム0.43個分）の下水を処理する水処理施設や汚泥処理施設が稼働している。流域下水道の仕組みは、家庭や工場からの汚水を市や町が布設している「流域関連公共下水道管」を通して流域下水道幹線に入り、下水処理場へと集められる。そして、きれいな水に処理されて、川や海へと放流される。

施設見学では、最初沈でん池、反応タンク、最終沈でん池等の説明を聞きながら見学した。最終沈でん池では、下水がきれいになっている状況は透視度計を使って覗いた。当初下水処理場の臭気を気に掛けていたが処理場内では少々臭ったが、処理場外ではほとんど臭いは感じなかった（建設時、地域住民との約束で厳しく管理し情報公開している等）、河地さんから詳細な説明があった。

下水処理場の上部を利用した施設は、柳島しおさい広場として、草の原っぱ、テニスコート、少年サッカーコート等、市民の憩い場所として利用されていた。



下水処理柳島管理センター前で

〔下水処理場プロセス〕

①沈砂池→②最初沈でん池→③反応タンク→④最終沈でん池→⑤消毒施設→⑥放流口：きれいに処理され、衝動された水が川や海へ放流される

2カ所の施設を見学して、大きな設備を稼働するため大量の電力、化石燃料を消費して県民サービスを担っている様子が見えた、エコアクション21で省エネ、省資源を指導しているメンバー全員が水の大切さ（節水を進めること）を痛切に感じ、コンサル、審査時に指導、アドバイスの必要性を感じた1日であった。また、施設の職員のみなさまの懇切丁寧な対応に感謝する次第でした。

【相模原支部】

## 活動実績報告ほか

支部長 武内 健三

### 1. 支部定例会

支部の定例会議は隔月に1回の割合で開くことを原則にしています。主に相模原市立環境情報センターの活動室で開催し、理事会等の報告、年度の活動計画・実績の報告と審議、自然観察会などの活動事業と環境問題について意見交換をしています。

### 2. 主な支部活動

#### (1) 行政・関係団体との協働

さがみはら地球温暖化対策協議会の会員となり、市役所・事業者・市民と共に事業活動に今後協力していく予定です。これまで下記のように相模原市内の工業団地・業界団体を訪問し、KECAとEA21のPRを行いました。

##### 1) エネルギー講演会

10月21日（月）、水素エネルギーの講演会に3名参加。市役所関係では環境経済局長、部長他20数名参加し、市役所が次世代エネルギーに関心が高いことが分かった。

##### 2) 相模原市イニシアティブ・プログラム

相模原市の担当課へフォローを行った。

##### 3) 相模原市内の工業団地訪問

①テクノパイル田名工業団地協議会、グリーンピア田名協同組合を訪問し、PRをした。

②テクノ相模協同組合、清水原工業団地協同組合に11月18日に訪問

#### (2) 自然観察会

昨年6月23日に「城山地区の里山・ホテルの里を訪ねて」で城山の歴史、里山の自然観察、蛍の乱舞など有意義な会を経験しましたので、今年の3月2日に「相模原沈殿池周辺の野鳥（水鳥）観察と春の公園を訪ねて」を計画しています。

### 3. KECA活動のねらいに対応した相模原支部活動のねらい

KECAの活動方針に従って、KECAおよび相模原支部での今後の活動について話し合った。

- (1) 環境経営支援の推進につき、相模原市イニシアティブ・プログラムの推進、工業団地協同組合・業界団体への働きかけを推進し、更なる環境経営支援を推進する。
- (2) 環境教育の推進は、「今年の6、7月に環境カウンセラー養成講座を開催する」よう検討する。
- (3) 行政・関係団体との協働は、相模原市および市事務所の「環境を良くする会」などを通じて、コミュニケーションを図り、来年の“さがみはら環境まつり”に参加し、KECA活動のPRを行う。
- (4) 協働事業の取り組みは、「さがみはら地球温暖化対策推進協議会」の事業に協力する。

(5) 地元自治体の審議会、委員会などの参画は、福田会員、先崎会員、辻野（元）会員が相模原市環境審議会の委員として参加している。

#### 4. 近隣工場の見学会

昨年の11月9日（土）、ビールを嗜む会員でサントリー武蔵野ビール工場の見学会を行いました。

この武蔵野工場は、廃棄物を36種類に徹底的に分別回収し、全てリサイクルしているとの説明を受けました。製造工程別に見学した後、新鮮な“ザ・プレミアム・モルツビール”を会員の持参したおつまみと共に味わいました。

#### 5. 最後に

相模原支部としては、今年はEA21普及活動の一層の推進及び環境教育の推進にも注力する予定です。



サントリー武蔵野工場見学者受付前にて



“天然水の森”のパネル



### 【西湘支部】

## 東海大学出前講義の概要報告

西湘支部 草間 昇

2013年11月9日、東海大学湘南キャンパス1号館1階教室にて出前講義を行いました。当支部の早野さんが講師を担当する東海大学学生5名と西湘支部から講師として小林、厚見、曾我氏が、他3名（今泉、坂山氏、草間）が参加協力しました。

三つの演題につき講義を行いました。

1. エコアクション21の仕組みと要求内容： 講師 小林嘉博氏
2. 水の話 あれこれ： 講師 厚見安宏氏
3. 「ケナフによる環境コミュニケーション」：  
講師 曾我 一人氏

各講義は30分間でしたが盛りだくさんの内容で、講義の終了毎に感想文の提出があり講義内容への質問も真剣なものでした。

#### 【講義内容の概要】

- 1) 「EA21の仕組み」については、要求事項や仕組みの構築方法等、かなり突っ込んだ内容でEA21の基本について講義されました。
- 2) 「水の話」については、大学近辺の秦野市の名水、全国各地の名水の由来などの紹介や水の分析手法にまで触れる内容を講義されました。



大学での出前授業風景

## 3) 「ケナフ」については、ケナフの育成から観た CO2 問題へ

の取り組みを、近隣の地域の住民の参加を得て企業が率先して実行している状況が紹介されました。

講義終了後でしたが、東海大学留学生の「カザフスタンの環境問題」についてのプレゼンテーションに対し、聴衆としての立場からのアドバイスも行いました。

以上

## 【三浦半島だより】

## ～湘南国際村はいま～

## 1. 経緯

横須賀市と葉山町にまたがる「湘南国際村」は、神奈川県主導のもと“緑陰滞在型の国際交流拠点（湘南国際村憲章）”として、今からちょうど20年前の平成6年（1994年）に開村しました。KECAでは平成14、15年、同村にある生産性国際交流センターの研修所において1泊2日の総合研修会を実施しています。

湘南国際村は全面積188.3haのうち、高級住宅地と湘南国際村センター、地球環境戦略研究機関（IGES）や民間の研修施設などからなるA地区はほぼ完成したものの、村全体の交流の中心地区（B地区）、大楠山の緑を活用した地区（C地区）の112.7haの計画は進まず、開発事業者は開発を断念し、平成22年（2010年）BC地区は神奈川県に無償譲渡され、「めぐりの森」（仮称）と命名されました。

この県有地について保全・利活用の基本計画が示されて、現在、「大楠山の緑＝前田川の現流域」は保護・保全区域として、それ以外の地区は①地元の活動団体によるコア事業（4事業）、②企画提案による公募事業（3事業）によって利活用が進められています（一部事業は遅々として進まず）。

## 2. 主な活用状況

## (1) 植樹活動

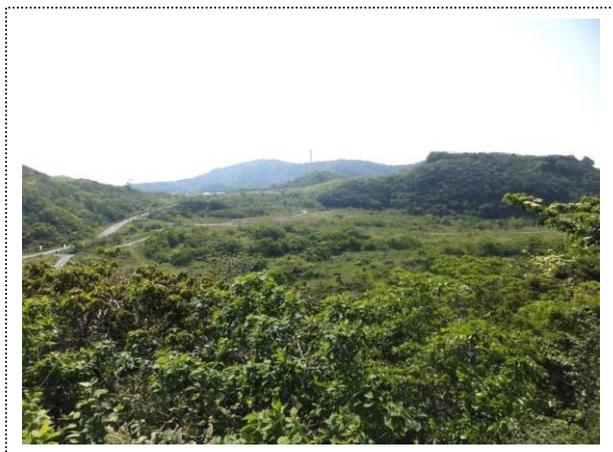
神奈川県で開催された全国植樹祭の前年、サテライト会場として植樹祭を開催して以来、毎年5月、11月に500～1,000人が参加して、横浜国大名誉教授宮脇昭氏の指導により植樹が行われています。宮脇方式と呼ばれる混植・密植の植樹で、これまでに約4万本（主としてシイ、タブ、カシ）が植樹されました。

## (2) 地元の活動（三浦半島自然ふれあい楽校）

地元横須賀・葉山の環境団体（12団体）で“自然ふれあい楽校”を立ち上げ、①年間を通じての環境モニタリングや、②カヤ場の再生、③実のなる木の植樹（地元小学校の体験学習）、④大タブの木（樹齢400年以上）、雑木林の保全・手入れのほか、⑤「サマースクール（8月）」、「オータムフェスタ（11月）」では、市民、子どもたちを対象とした「環境セミナー・学習会」、「環境カウンセラー養成講座」、「藤細工教室」や「野原と小川の観察会」「星空観察会」「前田川／尾形瀬川踏破」などを開催しています。

（協働参加型めぐりの森づくり推進会議、三浦半島自然ふれあい楽校）

横須賀三浦支部 高橋 弘二（記）



会員の声・報告
---------

## KECA総合研修会に参加して思うこと

県央支部 原千秋

毎年、晩秋に行われる総合研修会には、都合のつく限り参加している。私がこの研修会に参加する理由は二つある。一つは、夜の懇親会であり、大いに飲み、語り、先輩諸氏の経験を聞き、考え方を学ぶ場としている。もう一つは、この2月が締め切りとなっている、環境カウンセラーの活動実績報告書に「研修の履修状況又は研鑽活動の実績」の欄に「KECA総合研修会に参加」と書くためである。

ここで思うことは、昔の研修会では以上2つの目的がかなえられていたが、最近の研修会は、と考えると、参加者が少なく、研修内容も自然観察だけと、なんとも魅力の無いものになっている。

いくつか思い出してみると、富士フィルム出身の山本芳華さんと中山さんがKECAに加入した年、富士フィルム工場見学を行った。目的は、「写ルンです」の完全リサイクルについて（その頃はゼロエミッションという言葉は使われていなかった）採算は合うのか、他社の類似品との区別は？など多くの質問に的確に答えてくださったことを覚えている。その夜は中川温泉で、佐久間さん持参の天体望遠鏡で、土星の輪を観察したり、蘭の育て方のミニ講座など大勢の参加者がそれぞれに楽しみ、勉強したものである。また、葉山の湘南国際村での研修会の時は、総合研究大学院の学長からニュートリノについての講和をいただいた。小柴博士がノーベル賞を受賞する前の話である。

そのほか、大山の中腹、丹沢ホームでの鹿の話、箱根での水利権の話など、記憶に残る研修内容が多かった。参加者も多く、懇親会も盛り上がったものだった。

最近の研修会は、費用のことを気にしてか、バス旅行を使っているが、移動、待ち合わせに時間を取られ、研修の内容が考えられていないような気がする。近くでもっと内容のある研修会を望むのである。



紅葉が残る大谷川にかかる日光神橋



おおるり山荘の夕食（飲み放題でした）

## 環境省主催 環境カウンセラー研修（東北地区）に参加して

2013年度の環境省主催による環境カウンセラー研修（東北地区）については11月発行の事務局だよりで、10月16日が台風の影響により中止となった旨、お知らせしましたが、10月16日に出席予定であった会員へ11月29日に福島で開催される東北地区の研修（協力：福島環境カウンセラー協会）への参加を呼びかけたところ、横浜支部の榎本氏、相模原支部の先崎氏が参加されました。榎本氏から下記報告がありましたので研修会の概要をお知らせします（報告：榎本徹氏、事務局まとめ）。

- 受講者席には概ね35～40人が着座
- 会場の「こらっせ福島」は駅から徒歩3分ほどで便利
- 昼食は全員に手作りのおにぎりとお総菜がバイキング形式で振る舞われました（感動！）

- KECA相模原の先崎様にお目に掛かりました
- 長澤会長にご挨拶し、名刺代わりに拙著2冊を献本しました
- 修了証の交付は各県代表者が拝受（神奈川県三名の代表者は先崎氏）出来れば来年も東北地区で受講したいと思います。最後になりましたが、“おもてなし”を具現化されていた福島環境カウンセラー協会各位に心より御礼申し上げます。

別紙

平成25年度 環境カウンセラー研修スケジュール（東北地区）  
～ 再生可能エネルギーモデル県・ふくしま ～

日時：平成25年11月29日（金）10：00～16：20  
会場：福島県福島市三河南町（JR福島駅西口）コラッセふくしま4階 多目的ホールA

午 前 の 部	9:30	受付
	10:00	開講式（環境省 東北地方環境事務所）
	10:10	オリエンテーション（福島環境カウンセラー協会） 全体講義 ・環境行政の動向について 環境省東北地方環境事務所環境対策課長 佐々木 俊部 ・環境カウンセラー登録制度及び持続可能な開発のための教育（ESD）について 環境省東北地方環境事務所環境対策課長補佐 山口 和宏
11:00	基調講演 『再生可能エネルギーが日本を救う』 福島大学 教授 佐藤 理夫 氏 発表 40分 質疑応答 10分	
	11:50	昼食・休憩
午 後 の 部	12:40	環境カウンセラー事例発表 1.「企業の社会的責任（CSR）活動について」 NPO 法人福島環境カウンセラー協会 早野 信 2.「災害ガレキの処理状況及び課題について」 NPO 法人福島環境カウンセラー協会 長澤 利枝 3.「再生可能エネルギーをくらしに生かす」 NPO 法人福島環境カウンセラー協会 佐久間 光好
	13:40	質疑応答
	13:40	会場設営・休憩
	13:55	グループ別ディスカッション テーマ：環境カウンセラーの役割（アドバイス）について ① 太陽光利用（発電・熱） ② 風力 ③ 地中熱・バイオマス ④ 小水力発電
	14:55	グループディスカッションまとめ
	15:10	休憩
	15:10	全員研修 各グループのディスカッションまとめを発表（各グループ5～10分）
	16:00	質疑応答 アンケート記入
	16:10	閉講式 修了証交付（各県代表）
	16:20	



福島EC協会会長澤会長



グループディスカッション



グループディスカッションまとめ発表

## 保育園の「エコ育」で頑張ってます

私たち（KECA 横三支部：中村、遠田、高橋）が環境教育指導者として登録している横須賀市環境教育指導者派遣事業では2013年度から、これまでの小中学校への出前授業に加え市立保育園の「エコ育」に協力することになり、これまで2保育園で研修会、3保育園で「エコ育」を実践いたしました。

私たちの授業（プログラム）は、年少組（3歳児）と年中長組（4、5歳児）に分けて「水に関する授業（?）」を行います。年少組は(1)だけ約30分間、年中長組は(1)+(2)=約60分間授業

(1)『実験と体験・遊び』では、まず「トイレットペーパーとティッシュペーパーの違い」を実験で示し、水に溶けないティッシュはトイレに流さないよう教えます。あとはいくつか実験

を行います。一番人気があるのは「1円玉を水に浮かべる体験」で、園児は喜々として何度もトライしています。

(2)『水の学習』は、「水が氷や、目に見えない湯気・水蒸気になり雲になって、雨や雪になる“水の変身”」や、お家で使う水について、「どこからくるの?」「どこへいくの?」、マグネットを貼った絵をホワイトボードに貼りながら語りかけ、「水を大切に」「飲み残さない」ことを教えます。

授業の後は園児と一緒に給食をご馳走になったり、職員室で園長先生らと意見交換するのも有意義な時間です。（高橋記）



“うまくてきた！拍手！”

**事務局だより**

事務局長 河野健三

**1. 「事務局からのお知らせ」の発信**

昨年8月から【事務局からのお知らせ】をメールで全会員にお送りしていますが如何でしょうか。緊急のお知らせがある場合を除き、全会員への情報提供として月2回の発信を行っています。

ここでは、年頭の1月6日にお届けした【事務局からのお知らせ】[10]で述べられている中期計画検討会の概要報告と、前回のKECAニュース(No.50)で報告した福島環境カウンセラー協会との連携について述べます。

**2. 中期計画検討会の概要**

中期計画検討会は、木村理事長の巻頭言でも触れられているように【事務局からのお知らせ】[7]で送信した「KECAの活動方針」にある基本方針を実現するために、3年を目途とした中期計画を策定することを目的に、運営委員、委員長、支部長(代理を含む)など11名で設置されました。

昨年の12月から2月9日まで4回の検討会を開催し、(1)KECA全体に係わる事項(特に継続的財政について)、(2)支部・委員会等の活動に係わる指針について検討しています。

策定後、理事会の審議を得て、5月17日の通常総会で報告する2014年度の計画へも反映していく予定で進めています。

**3. 福島環境カウンセラー協会との連携**

福島環境カウンセラー協会との連携については、何回か【事務局からのお知らせ】で報告していますが、発端は2011年の6月のECU総会で福島環境カウンセラー協会の長澤会長が「一度自分の目で震災に遭った現地を見て欲しい」と訴えられた言葉から始まっています。

ECU総会に出席していた木村理事長から、このメッセージがKECAへ伝えられ、2011年8月の有志による1泊2日の福島交流・研修旅行が行われました。それ以来何回かの交流があり、今年3月8日に県民センターで開催される「市民活動フェア2014」には、福島環境カウンセラー協会の長澤会長が参加され福島の現況を伝えていただく予定になっています。

また、8日、9日の2日間、センター前の屋外で「がんばろう ふくしま!」の応援店である会津美里町の21八木沢生産組合(代表川原隆康氏)が安心・安全な農産物を販売いたします。

例年通り、KECAは10階に、活動紹介展示、省エネ体験などのブースを設置します。

市民活動フェアはKECAの仲間をはじめ、県内の市民活動に取り組んでいる仲間との交流の場にもなりますので是非来場ください。できましたら準備、運営、片付けのご協力をお願いいたします。

**予告****第20回記念市民環境活動報告会**

～新たな飛躍～地球の明るい未来を目指して

- 日時：3月1日(土) 10:00～16:20
- 会場：かながわ県民センター2階大ホール(横浜駅西口徒歩5分)
- 10:10～12:10 口頭発表5件、13:00～14:00 基調講演、14:05～14:30 口頭発表2件
- 15:00～16:20 テーブルセッション
  - テーマ1「再生エネルギー」
  - テーマ2「環境学習」
  - テーマ3「自然観察」
  - テーマ4「新ライフスタイル(生活環境)」
- 主催(実行委員会) NPO法人神奈川環境学習リーダース会、NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会  
かながわ地球環境保全推進会議
- 後援：神奈川県

**予告**

**市民活動フェア2014**

- 日時：3月8日（土）、9日（日）、10:00～16:00
- 会場：かながわ県民センター（横浜駅西口徒歩5分）
- 内容：県内で活動している NPO 法人、市民団体の活動紹介、物品販売と交流  
 <KECA 関連展示>
  - (1) KECA ブース：10階、活動紹介パネル展示、省エネ実験・体験コーナー  
 ※8日午後、福島環境カウンセラー協会長澤会長が「福島の復興現況報告」を兼ねて KECA ブースにお見えになります。
  - (2) 「がんばろう ふくしま！」応援店・会津美里町21八木沢生産組合（代表川原隆康氏）が安心・安全な農産物を販売します。  
 ※KECA 実行委員福田昭三理事の紹介

**【お願い】**

7日（金）18時からの出展準備、8日、9日の KECA ブース展示の活動紹介、体験コーナーサポート、9日の片付け（15時頃）、理事中心で行いますが、一般会員のご協力をお願いいたします。

**予告**

**2014年度（第18回）KECA 総会**

- 日時：5月17日（土）13:00～16:30  
 午前中、新入会員・会員有志のオリエンテーション、夕がた懇親会を予定
  - 会場：波止場会館（横浜・大榎橋入口）会議室
  - 内容
    - 1. 環境に関する講演（詳細未定）
    - 2. 2013年度報告、2014年度計画審議ほか
- ※総会資料出来次第、お送りいたします。

**【会員現況】**

	支部名	会員数（人）
1	横 浜	53
2	川 崎	12
3	横須賀三浦	6
4	湘 南	11
5	県 央	19
6	相模原	12
7	西 湘	11
	合 計	124

注) 2014年2月7日現在

**編集後記**

◇2013年度最後の KECA ニュースになります。KECA の「持続可能な財政確保」のため、どうしたらいいか、KECA 会員に対し「満足する会員サービス」はどうあるべきかなど、中長期計画の検討が進められています。検討結果は2014年度の計画に反映されますが、実行しなければ、実行できなければ「絵に描いた餅」になります。◇会員数120数名、なかには“顔が見えない会員”もいらっしゃいますが、KECA ニュースに掲載された全体、委員会、支部の活動報告を見て、積極的な参加を期待します。”楽しい KECA でなければ”（高橋弘二）

**【発行】 特定非営利活動法人**

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：木村信幸／事務局長（広報担当）：河野健三

住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPOスクエア内

電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

E-メール：[37keca@kke.biglobe.ne.jp](mailto:37keca@kke.biglobe.ne.jp)

URL：<http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

**【年会費等振込先】**

ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711